

令和7年第1回教育委員会 議事録

日 時：令和7年1月8日（水） 午前9時00分

場 所：香南市役所6階 604・605会議室

教育委員：三木守教育長、百田久範委員、中元啓恵委員、森本美穂委員

事務局：門脇教育次長、小松学校教育課長、猪原こども課長、山崎生涯学習課長、
小松(泰)教育研究所長、森教育企画監、溝渕学校教育課学校教育係長、
杉村学校教育課主査、山崎学校教育課長補佐（記録）

欠 席：亀川孝志委員

議 題

議 事

- 日程第1 議事録署名委員の指名
- 日程第2 議案第1号 就学援助認定について
- 日程第3 議案第2号 指定学校の変更の承認について（令和6年第18回教育委員会
継続審議案件）
- 日程第4 教育長の報告
- 日程第5 その他

開始 午前9時00分

○教育長

令和7年第1回香南市教育委員会の定例会議を始めさせていただきたいと思います。

まず日程第1、議事録署名委員は、百田委員さんよろしく申し上げます。

次、日程第2、議案第1号「就学援助認定について」、日程第3、議案第2号「指定学校の変更の承認について（令和6年第18回教育委員会継続審議案件）」は、就学援助のことと、指定校の変更の内容になりますので、これはどちらも個人のことということで、非公開という形で進めさせていただきたいのですが、よろしいですか。

（全員異議なし）

○教育長

非公開の承認いただきました。議案第1号と議案第2号は秘密会といたします。

議案第1号 就学援助認定について審議・採決（非公開）

議案第2号 指定学校の変更の承認について（令和6年第18回教育委員会 継続審議案件）
審議・採決（非公開）

○教育長

ただいまより、秘密会を解きます

日程第4「教育長の報告」ということで自分の方からの報告です。

今日皆さんにこの時間をお借りしてお伝えしておこうと思うのが、今自分が主でやっている

「南海トラフに備えちよく研修」の内容についてです。

今皆さんにお配りしている資料は2つのシートで1枚にしていますけれど、研修のときは4つのシートで1枚にして配るようになっています。

「南海トラフに備えちよく」は「3」までやっていますが「4」はまだ1回もやっていません。今日の午後、夜須小学校の校内研修でやることになっていて、その時に初めてこの「4」を使うことになります。もともと「南海トラフに備えちよく3」の研修時間は80分です。この「4」を配るけれども、研修は「3」で申し込みが来ているので、実際はこれを配るけれど、校長と相談のうえ、場合によったら途中を飛ばして80分でやるかもしれません。「3」と「4」の違いは3のデータに追加があるので時間が増えているというものです。

追加したデータは「P I X T A」という、ポスターとか雑誌とかにモデルさんを雇うとものすごいお金がかかるので写真として購入して落として取れるサイトがありますが、そこから自分が購入して落としたものです。「阪神淡路」それから「熊本」「能登」のデータ、がまず冒頭に入りました。

つまり、いろんな地震災害が起こったすぐ後とか、近しい時間帯でどういう状況だったかという写真資料を増やしました。

ただ、これがP I X T Aを使っている関係で、こうして自分が印刷してお渡しするのはぎりぎりOKですけど、データをお渡しするのは多分契約違反になるので、この「4」についてはもうプレゼンは僕のデータで僕がやらないといけないという内容のものにはなりません。

あと、冒頭にある石巻市のホームページや市町村のホームページの分は「3」にはなかった写真の追加です。

前にもお話したでしょうか、研修を始めて一番、自分自身がギャップを感じるのは、高台に上がった後で、高台に逃げた後、その続きがひと月ぐらいたった状況に、ポーンと話が飛び、その間の感覚や認識が飛んでいるというギャップをすごく強く感じるので、その期間の資料を増やすということを考えました。

発災直後、なかなか掃除も片付けもできていないようなタイミングでの写真資料を増やしています。順番にずっと見ていっていただいて、パワーポイント画面の下に番号がありますが、15ページから岩沼市がありますが、今度2月に直接行って聞き取りをします。

この15ページの岩沼の写真ですが、ここは仙台空港があり距離感というか地形的な感覚でいうと非常に香南市に近いと思いました。ここの当時の状況を今度2月に聞き取りをします。

シート19ページ、これはそれまでの「3」のときから同じものです。宮城県のホームページのほうにある写真資料の掲載です。

この「津波の襲来」という、全部で8枚写真あるうちの1枚目が15時23分の①です。15時23分の①から15時28分の⑦のところまで5分。1枚目①の8分の1の写真から8分の7の写真までが5分ですので、津波が来るまでは30分とか1時間とか言われていますけども、もうそこに来てしまったら、これほどの勢い、これほどの速さという資料になります。

それと8分の8が3月12日の写真ですから、要は瓦れきの様子です。

あと、そのほかの市町村、気仙沼とか松島とか、それから避難状況のこととか、世界から支援が来た、そういったことの紹介がされています。

その次、シートの26。最初の研修のときは、僕が実際撮った写真が、一番枚数が多かったんですね。でもそれをもうがつつり削りまして、ホームページとか、各市町村が出している写真に変えて、僕が撮った写真で残してあるのがこの26・27ですね。

それと28、これが後から追加で入れた資料ですけども、シートの28、東北大学がホームページで発表しているものですけども、年齢別の死者の数です。これ本当はホームページのほうは男女別の年齢別となっています。でも、ここには年齢別の総合の数字しか出してないですけど。

これで見たときに、若者の間でいえば10歳から14歳が一番少ないということになっていますが、どうして少ないかという分析まではホームページでは紹介されていません。自分の解釈になりますけれど一番本気で逃げたんだらうなという気がします。「逃げる」ということに対して、素直に即座に動けたのがこの世代なんじゃないかなというふうに思います。

そして今回、保育所の野市東への移行の話が出ていましたが、0歳から4歳は、5歳から9歳よりも10歳から14歳よりも数字が多いと。やっぱり自力で避難できるものではないですから、

そういったところを見るための参考というふうに考えているものです。

その次の「野蒜小学校」というところですけど、僕が知る限り、学校で子どもが亡くなって裁判になったのは大川小学校と野蒜小学校の2つですね。高裁までいって判決が出たっていうのは。ほかにもあるかもしれませんが、そのうちの1つが野蒜小学校ですね。

ここは体育館に約300人が避難していた。浸水想定区域ではなかったから、この「体育館が地域の避難所」だったので、子どもだけではなく地域の人もここに避難してきていた。ところがそこに津波が来て多くの方が亡くなった。

その次、シートの30が当時小学校6年生の子どもが、その時体育館でどんなことを経験したかという内容です。この中では目の前で人が亡くなっている姿のことがその時の経験として書かれています。

続いてシートの35が当時5年生のものですけども、この子も目の前で人が亡くなっていく姿や、津波が引いた後、体が濡れた状態で体育館で待っている中で、低体温症で亡くなっていく高齢者の方、そういった内容のことも出てきています。

次が石巻、それから女川というふうになります。

石巻の門脇小学校は、車がいっぱい流れ着いて車から漏れたガソリンに火がついて火事になったという学校です。

この裏手に山がありますけども、ここで火事になったけれど、みんなが助かったというのは知っていたので、地震があつて最初からこの山に上がっていたと思っていましたが、10月に聞き取りに行ったときに、この門脇小学校に当時勤務していたという方から直接お話をお伺いしまして「実は最初は屋上だった、火事になってから山へ逃げた。それも山に繋がる道があったわけじゃなくて、そこに板を、橋台を渡して、それで山へ逃げることができた。1つ間違えば皆がここで焼け死んでいた」かのような話をお伺いしました。

女川のホームページの中に宮城県の津波警報が20時間以上続いたというのが紹介されていたので、それを入れています。つまり、一時避難所に逃げた後、20時間以上警報が発令されている間は降りてきてはいけないということになります。

ということは子どもの引き渡しは地震の直後じゃない。それは前回、回った3つの市町村全部で言われました。「地震が来たから迎えに来て、子どもを渡すなんてことは絶対しない」と。実際、渡したあとで亡くなり、後で裁判になったという事案もあるし、そこで多くの保護者が亡くなったし、引き渡して帰している子どもたちが亡くなったので、津波警報が終わるまでは引き渡ししないのが今のルールということはどこでも言われました。そこは強く香南市でも提案していかないといけないところかなと思います。

あと、女川のホームページの中で紹介されている当時の写真などです。

それから大川小学校についてはご存じだと思いますけども、74人の子どもと10人の教員が亡くなった。ここも浸水エリアではないところでの起こった被害です。10月に行ったときに初めて自分が知ったのは、このシート49ですね。

学校のすぐ左側に橋があります。津波が川を遡上してきて、防波横の堤防を越えてきたということなので、そういうふうに認知していましたが、この10月に行ったときに、大川小学校よりも川上に意外と古い個人住宅が意外とある。「七十何人も人が亡くなったのになんでこんなに住宅があるのだろう」というのがすごく不思議でした。

そうしたら、実は大川小学校のすぐ横にあるこの橋に、防風林の松林が引っかけり、その松林に瓦れきが流れ着いて引がかかって、津波がそれ以上川を遡上できなくなり小学校のほうに流れ込んできたということが理由でした。

それは今年10月に行って初めて知りましたが、裁判は「ここが津波浸水エリアでなくても、学校長たるものは一般の住民とは違う多くの研修の機会があったはずだ。浸水エリアでなくても浸水することを想定したマニュアルを作るべきだったし、そのための避難訓練をしておくべきだった。それを怠ったので、学校長の責任だ。学校長に指導しなかったので教育委員会の責任だ。」という判決です。

「とことん徹底的に」ということがもう判例として示されましたので、自分たちは何を上限に訓練をするか、マニュアルを立てるかとなると、もうあらゆる可能性を考え切ることが求められているということになります。

あと、その次のページからは当事者、いろんな方からの聞き取りの内容を直接お伺いした方

を中心に紹介をしています。

その中で新しく「3」の途中から付け加えたパワーポイントがシート 54 とシート 55 ですが、これが 10 月に教育委員会に聞き取りに行ったときに出てきた話です。

浸水エリアにあった学校の教員はもちろん大変な思いをするんですけども、浸水エリア外にいた教員は結果的に学校が開けないし、そこが避難所になっているので通常通りの業務ができなかったため、何人も浸水エリアの学校に応援に行っています。

この 54 にある「木に引っかかっていた遺体を並べた」というのは、応援に来ていた先生方もやったという話でした。

実際にこの時にその場においての方のお話も 10 月に行ったときに直接ご本人からお伺いしました。そうすると、1 階が浸水していても 2 階 3 階が濡れていなければ、そこは避難所になったそうです。避難所も全く足らなかったから、結果的に石巻は浸水した学校も幾つも避難所に使っています。

その中で、そこに避難してきた方が「もうええかげんにあれをどうにかしませんか、あのままいつまで放置しますか」ということを言われた。

避難所運営とか、ご遺体の片付けなどご遺体に携わるみたいなことは、消防とか自衛隊とか警察とか、そんな人が来てやるものだと教師は思っているわけです。だから目の前にあることはわかっているけども、手をつけなかった。ところが、いつまでたっても来ないんです。

避難している方からそれを言われて、もう「自分たちでやる」というふうに決意をして、遺体をプールに並べたというのがこのときの話です。

そして言われたのが、今準備しておく段階で、遺体の収容というものについて決めておかななくてはいけないということです。

「避難した後、避難所で人が亡くなっていくので、浸水エリアであろうがなかろうが、各学校が避難所になる限りは、学校の中に遺体安置場は決めておかないけませんよ」ということまで言われました。そこまで準備しておくべきですよ、と。

それから、引き取り手のない子どもですね。もしかしたらその部屋の中に並んでいる遺体の中に親がいるかもしれない。そんなことを確認するためには、遺体の確認、個人の特定、これは教師の役割。園・所であれば、園・所の職員がその役割。親が迎えに来られないわけですので、それもあったということでした。

それからシート 59。1 階まで浸水した学校も避難所になった石巻の学校の実態ですけども、3 月に地震があって、一番長く 10 月まで避難所として運営をしていたという学校が 24。だから避難所をやりながら学校再開という状態になっていた。

この避難所運営には市の職員、行政職員はほとんど関わっていません。地域の者と教師とで全部やっています。どうして行政職員が関わってないかというと、行政は行政の仕事があるからです。関われないんですね。

例えば公民館などが避難所になれば、そこへは配置で入っていきますけども、学校に回せるゆとりがもともとないんです。だから教師の仕事なんです。実はそういう状況だったということでした。

それから津波警報が 20 時間以上、24 時間続いたということで、その間の引き渡しは絶対に駄目ですよ、ということを繰り返し言われました。

それからシート 61 に「訪問者にはスリッパを基本としない」「履き替えるものも靴」。瓦れきの上を踏んでもある程度安心できる厚底のものに履きかえる。

これは今、香南市各学校で協議をしてもらっているところです。夜須は先日、校長がこの研修を受けに来ていて、終わった後で立ち話したときに、これにするという方向に決めたという話をしていました。

あとはとにかくここ見ていただいたらと思います。

シートの 65 を見てください。「離れていても、互いに生きていと信じられる対策であることが重要になる」「津波警報発令中は自分の命を守ることが優先」「逃げ分かれた後に探しに行くと、最初の津波だけでなく、2 回目の津波に襲われるかもしれない」というシートが 65 です。

今年 2 学期に、香我美小学校の 6 年生に自分が話をしました。40 分ぐらいの時間でしたので、この資料から思い切り削りましたが、このシート 65 は入っていました。

その時に「例えば皆さんが高知市内へ親子で買い物に行っているとする。そこで地震が起こったとする。パニックになって、人が入り乱れて振り返っても親がいない。その時にみんなはどうする？」と聞いたときに、「親を探す」、「いや、高いところへ逃げる」と言える子もいましたが、多分研修の場での言葉だとは思いますが、「そうやね、高いところへ逃げないかんよね」、では「親はどうしていると思う」と聞くと、「私たちを探している」、「それはそうでしょうね、探しているでしょうね、でも、親はどうしなくてはいけないか、親も高いところへ逃げないといけない」。だから大事なことは、「私は絶対に死にません」ということを親にちゃんと安心してもらっていることが大事だと。「私の姿が見えないということは、私はどこか階段を上がって、ものすごく高いところにいる、24 時間降りてこない。どこかに上がっているから探しに来る必要がないんだ。そのことを信じ切って、お母さんも高いところへ上がって、24 時間そこにいてください」という約束ができていたことが一番大事なんだという話をしました。

それがこれからの避難訓練や引き渡しのベースになっていくというふうに考えています。

あとシート順にめくっていただいて、シート 70「みやぎの 3.11」、これは宮城県のホームページのほうで全ページがダウンロードできるようになっているものですが、その中で紹介されている当時そこに関わった職員の記録です。

地震が起こった 10 年後に当時のその部署同士で集まってもらって話を出し合ってもらった記録が「みやぎの 3.11」です。「南海トラフに備えちよく」の「シーズン 3」のときには入れてなかった部分が、この 02 です。「人命救助」は新しく追加したもので、救助の時、県のヘリコプターがどんな状況だったかということですが、また後で読んでいただいたらと思いますが、ヘリコプターが病院の上で渋滞したということです。ヘリポートがあるところじゃないと降ろせないで、ヘリポートのある病院に殺到するので、結果的に救助してもすぐ降ろせない状況になったという、言われてなるほどという話でした。

それからシートの 72 ですが、警察も消防も自衛隊もすべて「人命救助が目的」で来ているんですね。ところが 72 時間過ぎて、救助できる人命が亡くなっていくんです。そうすると活動の内容がご遺体の捜査になります。

ほかから人命救助が目標で助けに来てくれていた人たちが、この段階でもう人命救助の対象がなくなったので帰りますって言い出すわけです。

ところがご遺体がいっぱいあって、ご遺体の収容は本来の目的ではないけれども、残ってもらわないとご遺体の収容ができない状況になるので、当初の目的とは違うけれども、警察も消防も自衛隊も結果的には応援に来た人たちも交渉して残ってもらって、ご遺体の収容のお手伝いをいただいたということですね。これが法的なものも含めて非常に際どいというか、難しい問題だったということが言われています。

だから、ここですらこんな状態なので、さっきお話したように遺体の収集を教師がやったという話はそういうことです。全く手が足りない。誰かを待つと言っても、待っても誰も来ないという状況だったという話です。

それから、シート 80 です。「火葬埋葬」は、前から入れてありましたが、火葬したいけれども、火葬場が震災で浸水して使えない。使える火葬場もありましたが、もう全く機能しないという状態で、結果的にご遺体を火葬することができないので土葬するしかなかった。ビニールシートにくるんで、土葬するということで対応した。

今日、ここへ持ってきていないですけど、実はその写真があります。土を、多分ユンボで、横にダートと掘っておいて、その間にベニヤ板で仕切りをして、そのベニヤ板の仕切りにブルーシートにくるまれたご遺体が並んでいるという写真がありますが、研修のときにはその写真も見せながら、「かなり高い確率で私たちはこれをやるんですよ」ってことも紹介しております。

それから新しく付け加えたのが「28 心のケア対策」です。子どもたちの心理的に不安定な状態に対してどういうふうに当時関わっていったか、そこに関わった方々の紹介です。

この間、前回の「シーズン 3」に亀川先生がおいででいて研修を聞いていただけました。あと 3 人の方には、以前、教育長室のほうでパワーポイントを見ていただきながら、お話ししたので、大体かぶった内容になっています。

お渡ししている資料が、今日から使う一番新しい研修資料というふうになっています。

さっきお話ししましたように2月に岩沼の教育委員会に聞き取りに行きます。ここはお願いしたら「学校でやる防災にも一緒に行きませんか」というので学校も視察させてくれるということになっていて、いくつかの話が聞けるかなと思っています。

それと6月ですけども、これは県がやっている新任校長研修で、大川を会場にして、当事者の話を聞いた後、意見交換というのをやるので、それは参加の許可をもらっていますが、議会寸前で、一般質問の1週間前なので、今のままのスケジュールだとちょっと難しいかもしれませんという返事したら、そしたら全く同じプログラムで初任者研修を7月にやるということなので、そっちはいけるかもしれませんという話をしています。

それらも聞き取りをさせていただきながら、この資料を修正、膨らましていくというふうなことをこれから先やっていきたいと思っています。

先ほど話したように「備えちよく」の「3」に新しく付け加えたのが「4」ですから、今回呼びかけもしていますが、「3」で受講してくださった方については「4」で追加した分だけの資料を別に印刷して、直接お話を聞いていただかなくても、かぶっているところがいっぱいあるので、追加の部分は見ていただいたらわかる資料がほとんどですから、追加資料だけの配布ということもしますよ、ということにしています。

しばらくの間はこういった研修を続けていかないといけないかなというふうに思っています。

一方的な説明になりましたけど、いいですか。

○百田委員

プロジェクトXの話もありました。

タワーの周りに瓦れきができればそこら辺でご遺体が絶対あるだろうけど、それらも含めて防対がどこまで考えているのか。

東日本は3月でまだ寒いときだったからよいが、夏場となったら全然関係ないし、避難所設営の訓練をしているが、一応、国の指定だと1人当たり3.5平米だ。今、トレーニングセンターなどでやっているのが2メートル掛ける1メートルで、何もない。これだけ震災対応を進めているなかで避難所がただのワンフロア。

能登の震災関連死が、地震で亡くなった方以上に増えているので、そのへんの環境づくりもしっかりしてほしい。

○教育長

防対と一緒にやっていくということですね。

○中元委員

防災対策課とともに、情報の提供とかも今想定されているもの以上のことを更新しながらやっていただかないといけない。

「学校が避難所になった場合の運営というのが教職員の方になってしまう」、よく考えればそうですけれど、でも「きっとそこには市役所の職員さんが配置されて」と私も思ったところもあったので、もう有事の際には思ったとおりのことがいかないから、その枠のもう1つ外側の人達も協力しながらやっていかないといけないということをみんなが知っておかないと、「誰かがやってくれるだろう。何でしてくれないのか。」ということになってくると、避難した先ではトラブルにもなるだろう。

学校が避難所になっていけば、迎えに来てもらえない子どもたちのこと、そのあとどうするのか、誰が最後までそこに残っていてくれるのか、とかいう大きなところがあってそこに繋がる細かいところまで、一つ一つ、皆さんと一緒に考えていくことは大事だろうなとしみじみ思いました。

○教育長

もう1つ、担当がうまく張りつくことができれば、ぜひやっておきたいと思っていることがあります。

実は、香南市役所の職員の中に、実際に震災の現場を見てきている方がたくさんおいでるので、そういった方々が「何を見てどう感じたか」ということを集める作業が大事かと思います。

そういった方々の話は、研修の資料には載っていない。何となくみんなにとって遠い向こうの話と思っているものを「身近に目の前で見ている事実をここへ蓄積している」という作業が大事かというふうにも思います。

ボランティアで行ってとか、支援に行ってとかいう方は議員さんの中にもいるけれども、そ

ういった方々の話はここに載ってないわけですね。あくまでも僕が直接聞いたか、見知った話でしかないの。そうではなくて実際は知っている方がおいでるわけですから。

山崎課長補佐も見ているわけですね。

○百田委員

女川町の報告書が出来上がりますよね。また、それが参考になるようでしたら。

○教育長

はい。

その他でもう1つ。

○学校教育課長

今日から学校がスタートしました。大雪だということで天候の心配もあり、インフルエンザも流行っていたので、どういう状況かなど学校に聞いてみたところ、3つの小学校がオンラインで始業式をするということです。野市小学校・吉川小学校はインフルエンザの子どもたちも多いので、オンラインを使用しています。

○教育長

自分の教室でということですね。

○学校教育課長

はい、体育館で全部集まるっていうのが、3校以外のすべての学校が従来どおり体育館に集まって始業式をスタートしています。

3つの小学校ですが、野市小と吉川小はインフルエンザが多いからということですが、夜須小学校はインフルではないが、2学期の終わりにオンラインでやったので、今回もそのような形でやっています。

それ以外のところもインフルエンザにかかってない子が全然いないわけではないけれども、全体で対応できるような状況だったので、全体集合をしてスタートしているところです。

お知りおきください。

○教育長

学級閉鎖の話はないですか。

○学校教育課長

それはありません。

○百田委員

保育・幼稚は出ているかわかりませんか

○こども課長

出ていますけれど、通常どおりです。

○教育長

そしたら、ほかにはないですか。

○教育次長

日程です。次回の教育委員会ですが、第1水曜日、2月5日ですが、会議室等の都合もあり、午後の1時半からということでお願いをしたいのですが、よろしいでしょうか。

それと、その次の3月ですが、定例は5日ですが、5日から一般質問が始まることもありまして、その手前の3日月曜日の午前中か、4日火曜日の午後が空いているところになります。

4日が所属長会議が長引く可能性も考えると、できれば3日月曜日の午前中9時からという形でお願いをしたいのですが、よろしいでしょうか。

そしたら、2月は2月5日水曜日の1時半から、3月は3月3日月曜日の9時からという形で一旦予定をしておきたいと思います。

それと、今日封筒でお机の方に配っていますが、1月30日に旧森田家住宅と教育支援センターの取り組みについての勉強会の開催を予定しています。案内を入れておりますので、ぜひ出席をよろしくお願います。

駐車場は森田の方が使えないので、道を挟んで向かい側のスペースのところに止めていただいて、そこで集合してそろって旧森田家住宅へ行くように予定をしておりますので、また文書を見ておいていただけたらと思います。

○百田委員

午後1時30分にどの駐車場ですか。

○教育次長

森田のところの駐車場です。別紙を同封しております。

それから、まだ案内が来ていませんが、以前にもご案内していましたが2月13日木曜日に高知県の教育委員会連合会の総会と研修会が予定をされています。

例年でいうと1時受け付けの1時半始まりというようなイメージで総会があって、そのあと2時から研修会というような日程になるんじゃないかと思われれます。高知会館でありますので、また案内が来たら、ご連絡します。

次の教育委員会の前に出欠の取りまとめしなければいけないと思いますので、ご連絡をいただけたらと思いますのでよろしくお願いします。

以上です。

○教育長

あと、「議案」の数の話をお願いします。

○教育次長

これは事務的な話になりますが、今回の議事日程のところで「議案第1号が就学援助」で「議案第2号が指定校の変更」とありましたが、この「議案第2号」というのが、前回の18回の教育委員会のときの議案番号が「議案第2号」だったので、ここに「議案第2号」と書いています。

今まで、各教育委員会ごとに第1号から順番に番号を振ってきましたが、こういう形で継続審議になったときに、もし今回「議案第3号」までであった場合、この継続審議の「指定校の変更」を「第4号」とするのも変な話ですし、どの分の継続審議かわからなくなるので。

通常各市議会などは、同じように1月からリセットされますが、1号から順番に番号を取っていています。もし仮に18回のときが、1月から暦年番号でいっていたら、多分「議案第80号」とかみたいな感じになっていたと思いますが、そういうときに、日程第2「議案第1号」が「就学援助認定について」で、日程第3が「議案第80号の指定校の変更について」というふうになると、どのときのどの案件かというのがわかる。もし案件が2つあったときとか、継続とか、そういうこともあるので、よかったら議案の番号はそういう形で、次から振り直しをしたいと思います。

今回は「議案第1号」が今回の部分になるので、次の議会のときには教育委員会は議案第2号から議案番号が始まるというようなイメージになります。その点、議案の番号がちょっと変わっているなど感じられたら、そういう理解をお願いをしたいと思います。

○教育長

この「日程第3の議案第2号」のこの「2」は上に引き続く「2」じゃなくって、前回の12月にやったときの「2号」の「2」という解釈なので、今1月の1、2ではなくて、1月は「1」しかない状態になって、次2月やるのが「2」から始まるという話です。

そこからずっとその日その日の番号ではなくて、もう順番に通し番号になっていきます。

○学校教育課長

去年度までは通し番号じゃなくて回数の番号だったけれど、今後はずーっと通し番号になるということですね。

○教育長

12月までです。1月からリセットして「1」です。

すいません、途中休み時間も取らずに延々やってしまいましたけども、以上で第1回教育委員会を終了します。

お疲れ様でした。

閉会 午前11時05分